

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・長さで，直接比較，間接比較，任意単位，普遍単位による測定をしている。普遍単位の便利さとよさを学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・何かをもとにすると比べることができる。

・全員が同じ物をもとにすると，数値で比べることができる｡

教材研究ノート№1-C-2

≪学習問題≫

水筒に入る量は，同じかな｡違うかな｡

ランキングをつけてみよう！

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し:何かをもとにすれば，量の多さを比べられる。

→何かをもとにしていくつ分か測れば，ランキングが出そう。

②学習課題:もとにするものを決めて，いくつ分かを出してみよう。

③個人追究:基準量のいくつ分でかさを測り，数値化する。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの方法で，ランキングを出したらいいかな？」

→「全員が同じ入れ物を使って測ると，すぐに分かる｡」

④共同追究後半（思考を深める）

「測る人が違うし，いろいろな場所で測っているのにいくつ分の数で決めていいの？」

→「長さのときも，みんなで同じ物を使えば，いくつ分かで比べることができた。」

「かさも長さと同じように、同じもののいくつ分で比べられる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・長さと同じように，「かさ」でも同じ入れ物で測ると，誰が測っても，どこで測っても，いつ測っても，そのいくつ分かで量を比べることができる｡

⑥定着･活用問題

いくつ分になりそうか予想して，測ってみよう｡

(1) 同じ量が入るペットボトルなどの容器を用意し，入れ物の形にとらわれず，単位量のいくつ分か測る。

(2) 身近なものが測れるように，「量のものさし」をつくる。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「量と測定」の領域で一貫している学び方が，「単位を決めて，そのいくつ分で数値化する」ことであるので，「長さ」の学習の流れをまとめて掲示しておくなどして，「長さ」と「かさ」を比較しながら学習を展開できるようにするとよい。

・普遍単位の必要性に意識が向いた後，身近にある入れ物の容積表示に着目させ生活で使われている算数への関心を持たせたい。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】